

# Costume and Textile

No. 7

服飾文化学会会報

2004年3月



研究例会 根津美術館にて

## 平成 15年度卒業論文・修士論文発表会の報告

平成 16年 3月 6日(土)、大妻女子大学を会場として恒例の卒業論文・修士論文発表会が開催された。今年は修士論文が増え、石山彰会長に良い研究揃いと講評を受けた。修士論文の概要とプログラムは次の通りである。

### 修士論文概要

- 1) 1980～90年代のファッションと時代環境  
—ジャンニ・ヴェルサーチの表現を中心として—

実践女子大学生活科学研究科 森下 則子  
現代の価値観の多様性はライフスタイルやファッションにも現れる。ファッションの多様化の基盤を80～90年代と考え、ジャンニ・ヴェルサーチを取り上げて、彼の作品と当時の時代環境との関連を見出そうとした。その視点として、1. 芸術的表現、2. 性の表現と他のデザイナーとの比

較、3. 時代環境、の3点から検討し、彼は、時代感覚にいち早く気付きこれを表現した当期を象徴するデザイナーであると考察した。

- 2) 日本における手工レース産業の導入  
—高木商店を中心に—

東京家政大学家政学研究科 永野 泉  
16～19世紀にヨーロッパで盛んに作られた手工レースは、日本では明治維新後初めて使用され、明治中期から大正期には製造販売まで行われた。高木鐸が経営し製造輸出を行った高木商店は、その草分けの企業であった。鐸はドレス・ブラウス・小物などのデザイン上の必要性から多様で質の高いレースを製造した。洋裁技術やデザイン、それによる女性の生活向上や就業による自立を意識して啓発した点で、女性史の観点からも意義が深い。

3) 鍋島更紗に関する一考察

—その製作期と文様・技法をめぐって—

日本女子大学家政学研究科 永友 理愛子

16,7世紀,インドを中心に各国から舶載された模様染の木綿布を模倣して和更紗ができた。鍋島更紗はその一つであり,秘伝書によると草創は慶長とあるが,藩その他の資料には18世紀中期から19世紀に登場する。一般に更紗が文献や浮世絵に見られるのは18世紀後半で,鍋島更紗もこの頃で来たと思われる。模様は,鮮やかなもので日本固有のものと中国の影響を受けたものがある。技法は,他の和更紗が型紙摺であるのに対し木版摺と型紙摺を併用する。

4) 高齢者の下衣衣料の適合性

和洋女子大学総合生活研究科 石内 南里

21世紀は超高齢社会と言われ,長い高齢期を生き生きと充実したものにするには,健康で自立した生活を目指して日頃十分な運動を行い,体の機能低下を遅らせることが重要である。そこで,歩行動作を阻害しない着心地の良い衣服提供を目的に,色や素材の嗜好・要望を分析,体型や身体機能の経年による変化を把握し,個人差の大きい高齢者の体型特性のパターンへ展開して,試着による観察と記録・官能検査等,下衣衣料設計に必要な部位の基礎資料作成のための実験を行った。

5) 日本と韓国におけるスポーツウエアの購買行動の比較

—20代男女のスポーツ活動を中心に—

文化女子大学生生活環境学研究科 鄭 朱媛

2002年の日韓共催サッカーワールドカップを契機に,互いのスポーツウエア市場がマーケティングの挑戦地となった。両国の余暇活動の意識とスポーツウエアの購買行動の違いを調査・分析した。韓国では余暇意識が希薄で一般人のスポーツ参加が限られ,スポーツウエアもカジュアルウエ

アとして着るが,日本は余暇意識が成熟,スポーツ生活が定着してスポーツとカジュアルを区別するが,スポーツブランドと有名デザイナーとのコラボレートで,カジュアル化が進むと考えられる。

(論文発表会担当 鷹司 綸子)

《プログラム》

13:00-13:05 開会の挨拶

服飾文化学会会長 石山 彰

卒業論文

(座長 小笠原 小枝)

結城紬の特徴と現状

東京家政学院大学 後藤 朋美

琉球の緋の文化史的考察

共立女子大学 小高 理予

(座長 藤居 真理子)

新しいデニム素材の開発を目指した嗜好調査

大妻女子大学 澤井 紘美 関谷 美穂

これからのかりゆしウエア —実物制作—

文化女子大学 小池 優香

(座長 伊藤 紀之)

ホイッスラーとジャポニズム杉野服飾大学 高橋 愛

ヴィクトリア朝におけるテーラードスーツの成立と変遷

—The Queen より—

日本女子大学 板倉 明加

修士論文

(座長 能澤 慧子)

1980~90年代のファッションと時代環境 —ジャン

ニ・ヴェルサーチの表現を中心として—

実践女子大学生生活科学研究科 森下 則子

(座長 塚田 耕一)

日本における手工レース産業の導入 —高木商店を中心

に—

東京家政大学家政学研究科 永野 泉

(座長 佐藤 泰子)

鍋島更紗に関する一考察 —その製作期と文様・技法

をめぐって—

日本女子大学家政学研究科 永友 理愛子

(座長 永井 房子)

高齢者の下衣衣料の適合性

和洋女子大学総合生活研究科 石内 南里

(座長 石井 とめ子)

日本と韓国におけるスポーツウエアの購買行動の比較

—20代男女のスポーツ活動を中心に—

文化女子大学生生活環境学研究科 鄭 朱媛

懇親会 大妻女子大学アトリウム

## 研究例会の報告

日時 平成16年3月10日(水)  
午後2時より4時頃まで  
場所 根津美術館  
東京都港区青山6-5-1  
Tel 03-3400-2536  
内容 14:00～ 列品解説  
特別展 「仁清の茶碗展」  
学芸員 吉岡明美氏  
15:00～ 特別閲覧  
「伊達家伝来の名物裂帖」  
「更紗手鏡」

### 〈研究例会に参加して〉

日本女子大学 被服学科 鄭 銀志  
春の陽が穏やかに感じられる3月の午後、表参道から青山の通りをしばらく行った所にある根津美術館で「平成15年度服飾文化学会研究例会」が行われた。今回は、会員25名、学生3名、総勢28名が参加された。

昭和15年、根津嘉一郎によって創立された根津美術館は、自然の味わい深い7,000坪の庭園を備えた、まさに芸術のための空間そのものである。美術館の主な収蔵品は東洋の古美術品で、絵画、書蹟、彫刻、漆芸、金工、木竹工、染織そして考古と多岐にわたる。国宝7点、重要文化財81点、重要美術品99点を含む東洋古美術7,000点を収蔵し、随時内容を変えて企画展を行っている。特に仏教美術や茶の湯の美術における傑作は枚挙にいとまがないとされている。

当日はまず、特別展として仁清の名碗とともに、根津美術館蔵の高麗茶碗をはじめとする優品を鑑賞した後、常設展を閲覧した。引続き、特別閲覧として伊達家伝来の名物裂帖及び更紗手鏡をみせていただいた。

美術館の1階には常設展示室と特別展示室が設けられている。常設展示室には、中国商周時代の著名な青銅器をはじめ、東洋の陶磁器、日本の洛中洛外屏風、漆芸などが展示されており、歴史的

な美術品の数々に圧倒される。

特別展「仁清の茶碗展」の観覧は、学芸員吉岡明美氏の丁寧な列品解説のなかで行われた。野々村仁清は茶壺や香炉などの華やかな色絵陶器を製作した江戸時代前期の陶工として知られている。透明なガラス戸に顔を近づけて覗く、仁清の茶碗。碗形の器一面に、満月の下で秋風にそよぐすきを描いた色絵武蔵野茶碗、緑と青の蔓唐草文のびやかに描いた色絵鉄仙花茶碗などから、着物にみる染織紋様との関連性が想いつく。その優雅で華麗な意匠に目を奪われ思わず触れたいくなる。ガラス戸の隔がうらめしく、そんなはがゆい思いにさせられるのは私だけではないだろう。

展示室の奥側には、朝鮮王朝時代の高麗茶碗、なかでも口縁が大きくゆったりとした素朴な形の井戸茶碗や雨漏茶碗、そして高麗茶碗の中でももっとも和風茶碗に近い姿をしている御所丸茶碗など



「伊達家伝来名物裂帖」の閲覧



「更紗手鏡」の閲覧

が展示されていた。仁清の茶碗は、江戸初期のはじめのうちは色絵ではなく、舶来の高麗茶碗を真似して作ったものであった。今回、朝鮮時代の高麗茶碗を併せて鑑賞することにより、仁清の作品世界の理解を深めることができた。この展示は、江戸初期の高麗茶碗の流行と、仁清がどのようにして色絵茶碗を作り出したのか、その変遷過程を辿る中で、そこに顕れたモチーフから染織の紋様との関連性も読み取れる興味深い内容であったと思う。

「伊達家伝来の名物裂帖」と「更紗手鏡」の特別閲覧に際しては、学会員が互いに意見を交換しながら1時間にわたってじっくり裂帳を鑑賞した。名物裂とは、室町から江戸時代に至る茶道の発展の中で、「名物」として格付けされた茶入りの袋や掛軸の表装に用いられた様々な舶来の染織品のことである。江戸時代には名物裂を貼り付けて保存する「裂手鑑」が作られるようになるが、今回見せていただいた「伊達家伝来の名物裂帖」には総数124点が貼られていた。保存状態がよいためか絹の光沢が美しく、なかでも金糸を用いて文様を織り出した金欄、経緯の色糸をかえて唐草文を織り出した緞子、縞文の間道などが多くみられた。加えて閲覧させていただいた「更紗手鏡」には、小花や大輪の花をはじめとした多種多様な古裂152点が貼られていた。中にはインド更紗をはじめヨーロッパの更紗などが多く占められた。更紗は、主に木綿に草花、樹木、鳥、動物、幾何学文様などを手描きや、型染、防染などの手法で染めたものである。インド発祥の更紗は、もっとも古い歴史を持ち、17世紀初期から日本へ渡来し、貴重な裂として珍重されたとされる。

異国情緒あふれる「めでたきもの」、その渡来織物への憧れを、一片の古裂に求めた江戸人の独特の美意識を、改めて実感した大変充実した研究会であった。

\*\*\*\*\*会員からのおたより\*\*\*\*\*

ニット作品集を刊行して

—『糸の造り出す未知の世界』—

和洋女子大学 多田 洋子

小・中学校の家庭科から編物の授業がなくなってしまったようである。家政科の学生達に聞いても、ほとんどの学生が、小・中学校の家庭科で編物の経験はなかったという。編物による授業がいかに多くの意義を持つかを提唱している私にとって、これは大変残念なことである。

一枚のセーターを作るには、まずヒツジから刈り取られたフリースを洗毛、カーディング、紡毛、染毛をして、できた糸を平面構成し、さらに立体構成するが、編物にはこのような過程を知るだけでなく、学ぶべき多くの領域がある。例えば（現在、世界のファッション界ではニットが半分近いシェアを占めているが）デザインでは色、材質、形などにおいて自由な発想が可能である。また、今日、地球環境問題が多方面で論じられているが、編物は天然素材であるヒツジの毛から作られる糸を使用し、編んだものは再び一本の糸にもどすことができるわけで、エコロジーにもなっている。

テキスタイルの歴史研究の中で、編物の分野の研究家は著しく少なく、研究成果も乏しいため、調査するほどに新しい史実が見出される。これは、これからの編物研究においては未知の分野が大いにあるということであり、これも編物を学ぶ大きな意義のひとつである。



作者と作品（ロングコート）



拡大・背面に絵画風の装飾

今強く押し進めていきたいことは、次世代への文化継承と、生涯学習としての編物である。近年、色々な生活文化を次世代へ伝えるということがなくなりつつあるが、編物は日常生活に密着しながら生活文化を伝承できる最適なものではないだろうか。昨年、このような考えを発信したいと思い、本の出版を計画した。出版社にはなかなかこの趣旨が理解されなかったので、自費出版に踏み切った。『糸の造りだす未知の世界』と題したこの本は、編物はこんなに楽しいという私の思いを込めた作品集である。新聞の家庭欄や業界誌、手芸誌などに紹介され、その目的も少しは達せられたかと思うが、この啓蒙運動をさらにこれからどう展開していくかは今後の私の課題である。

B5判変型 79頁 2003年2月23日

アドミックス発行 定価 3,800円

### 第5回総会・大会のお知らせ

第5回総会・大会の開催について、会員の皆様には、既に概要をご案内いたしました。先頃、具体的なプログラムが決定しましたので、改めてお知らせいたします。この機会が、会員個々の研究と交流の場となり、また、服飾文化研究の活性化につながる意義ある会となることを念じて、多数の皆様のご参加とご支援をよろしくお願いいたします。

開催校 文化女子大学

開催日 平成16年5月22日(土)・23日(日)

プログラム

5/23(土)

12:00- 受付開始

14:00-14:05 開会挨拶

14:05-15:35 研究発表

15:40-16:20 総会

16:30-17:50 特別講演

「近代日本と流行ー拡大する商品世界と意識の変容ー」

関東学院大学 神野 由紀氏

18:00-19:30 懇親会

5/22(日)

9:30-11:30 研究発表

11:40-12:30 展示発表ショートスピーチ

※作品およびポスター展示は、

5/22 14:00 - 5/23 12:30

13:30-15:00 見学会(文化学園服飾博物館)

「ドレスを彩る帽子・靴・バッグ…

1800s-1960s」 「近年の新収品 日本」

(総会・大会実行委員長 佐藤 泰子)

### 第5回夏期セミナーのご案内

今回の夏期セミナーは山梨県富士吉田市・富士河口湖町・中富町で行います。

富士吉田を中心とした郡内地方はかつては甲斐絹の産地で、現在では、先染織物産地として知られており、最新の技術を駆使して婦人服地・裏地・夜具地・傘地などを織り出しています。セミナーでは講演と工場見学を通じて、このような郡内織

物業の歴史と現状に触れていただく予定です。

同じ郡内地方の西部に位置する富士河口湖町では、伝統的な大石紬が地域の人々によって伝承されています。町立の大石紬伝統工芸館を訪ね、実際の作業を見学します。途中、久保田一竹美術館にて、「一竹辻が花」を鑑賞します。

その後、西湖・精進湖・本栖湖を周遊して甲府

盆地に下り、全国各地の和紙2,400種を展示販売する「和紙の里」を訪れます。

《スケジュール》

8/10 (火) 13:00 富士急行線富士吉田駅集合  
講演と工場見学

18:30 懇親会

8/11 (水) 9:30 宿舎発  
大石紬伝統工芸館  
久保田一竹美術館  
中富町「和紙の里」

17:30 甲府駅にて解散予定

★詳細なスケジュールは後日お知らせします。

(夏期セミナー担当 石山 正泰)

\*\*\*\*\*編集後記\*\*\*\*\*

また、うららかな季節が巡ってまいりました。年度末から新年度への転期のなかで、気持ちは、さらに何ヵ月も先に向けられているのではないかと思います。

本号には、3月開催の卒論・修論発表会と根津美術館での研究例会の報告、そして、5月の大会と8月の山梨でのセミナーのご案内等を掲載いたしました。会員だよりにご寄稿の多田先生には、作品集の中から、第3回大会展示発表作品として私達の記憶にある秀作の写真をリクエストさせていただきました。会報が、会員個々の発現の場にもなることを期待いたします。

(会報編集担当 佐藤)

☆購読会員

共立女子大学図書館

★会費納入のお願い

平成16年度の服飾文化学会会費6,000円を5月中に同封の振込用紙にてお振込み下さい。過年度未納の方もよろしくお願ひ致します。会費に関するお問い合わせは下記にお願ひ致します。

〒102-8357 東京都千代田区三番町12  
大妻女子大学第三意匠学研究室  
服飾文化学会事務局  
TEL・FAX 03-5275-6029